

長野県産カーネーションの復権は可能か 野菜花き試験場

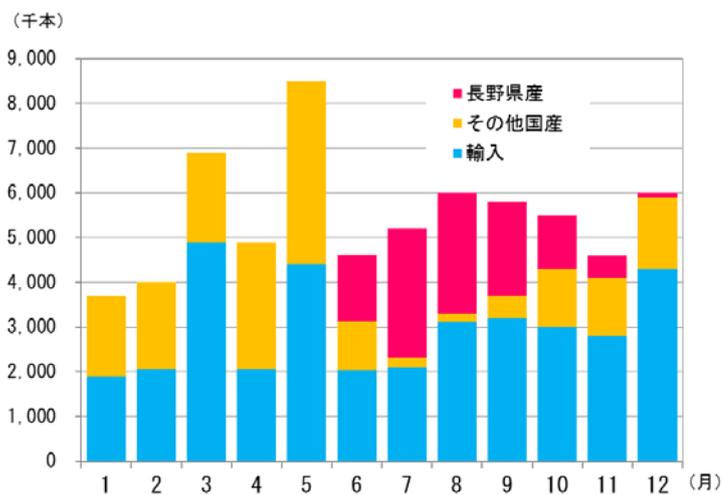
長野県は、カーネーションの作付面積、生産量とも全国一位の産地です。しかし、現状は価格低迷や生産者の高齢化などにより、産地存亡の危機に見舞われています。

中でも輸入品の急増が最大の脅威となっています。近年、コロンビア産や中国産などの輸入品が年間を通じて国内需要の50%以上を占めるようになりました（下図）。

輸入急増の主な要因は、低価格でしかも高品質な商品が年間を通じて安定供給され、市場の絶大な信頼を得ていることです。例えば、主産地のコロンビアのボゴタは赤道直下（北緯4度）の標高2,500mに位置し、1年を通じて日平均気温が18℃前後、しかも日射量、日長時間ともに1年中ほぼ同じというカーネーションに最適な環境の下、1年を通じて計画的に栽培され安定供給されています。

このように、輸入攻勢にさらされている国内産地ですが、対抗手段はないのでしょうか。国産カーネーションは、長野、北海道などの夏秋切り（6月～11月）、愛知、静岡、長崎などの秋～春切り（11月～5月）と大まかな産地リレーが行われ、産地が切り替わる6月、11月や母の日、クリスマス等の物日、ブライダルシーズンなどには輸入量が増加します。そこで、国内産地が連携して市場に一定品質以上の切り花を安定的に出荷する体制づくりを行うことが、輸入切り花に対抗し県産カーネーションを復権させるための最大の切り札となっています。

このため、野菜花き試験場では、7～8月の開花ピークを6月及び9月下旬～11月に分散するため、1番花と2番花の修正摘心方法の開発、この作型に適した品種の選定、業務需要の多いスタンダード白色品種の夏秋期安定出荷技術の開発などに取り組んでいます。



東京都中央卸売市場におけるカーネーションの
月別入荷量（平成24年）

担当者

名取 和宏

電話番号

0263-52-1148

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)